

# ホープツーリズム（教育旅行版）

複合災害の教訓等から「持続可能な社会・地域づくり」を探究・創造する  
福島オンリーワンの教育旅行プログラム

学び × 福島 = 希望

Ver.5

地震・津波・原発事故…  
世界ど類を見ない「複合災害」からの学びを  
私たちはあえて「震災・防災学習」とは呼ばない。  
福島どしか学ばないことが本当にあるから。

何のために学ぶのか？  
自分は将来、何をしたいのか？  
忘れてはいけない、人生の歩み方  
そのヒントが、  
きっと福島で見つかる。

福島県観光交流課  
福島県観光物産交流協会

# 「ホープツーリズム」は 世界に類を見ない「複合災害」を経験した 福島でしか学べない新しい教育旅行プログラム

～福島をフィールドとした「主体的・対話的で深い学び」の実現～



福島県知事 内堀雅雄

東日本大震災以来、全国の皆様からたくさんの励ましや温かいご支援をいただいておりますことに改めて心から感謝を申し上げます。

福島県では、震災と原発事故を経験した福島ならではの新しい教育旅行プログラムとして「福島のありのままの姿」と「復興に向け様々な分野で果敢にチャレンジする人々との対話」、「複合災害の教訓等からこれからの未来を探究・創造する」学びのツアー「ホープツーリズム」を推進しております。

私は、福島<sup>ごと</sup>の状況を他人事ではなく、自分事<sup>ごと</sup>として真剣に考えている生徒たちの姿に大きな感動を覚え、実際に福島に来て、学び、考えていただくことが、福島<sup>ごと</sup>の現状を理解するだけでなく、アクティブラーニングの手法を用いた「主体的・対話的で深い学び」の実現にも繋がると確信しました。

本事例集では、ツアー内容や学習効果等について詳細に紹介しておりますので、ぜひご覧いただき、福島をフィールドとした教育旅行をご検討いただきますようお願いいたします。



## 豊富な実施実績！

※実施年月順、中学校・高等学校のみ記載

- 東京都 筑波大学附属駒場 中学校・高等学校
- 兵庫県 灘 中学校・高等学校
- 京都府 立命館 中学校・高等学校
- 京都府 立命館宇治 中学校・高等学校
- 東京都 お茶の水女子大学附属 高等学校
- 埼玉県 埼玉県立浦和第一女子 高等学校
- 千葉県 市川 中学校・高等学校
- 埼玉県 埼玉県立不動岡 高等学校
- 東京都 中央大学附属 中学校・高等学校
- 山形県 山形県立東桜学館 中学校・高等学校
- 神奈川県 逗子開成 中学校・高等学校
- 千葉県 千葉県立船橋 高等学校
- 千葉県 千葉県立佐倉 高等学校
- 千葉県 千葉市立千葉 高等学校
- 東京都 筑波大学附属 中学校・高等学校
- 東京都 明治大学附属中野 中学校・高等学校
- 広島県 広島学院 中学校・高等学校
- 東京都 東京学芸大学附属国際 中等教育学校
- 兵庫県 仁川学院 中学校・高等学校
- 兵庫県 報徳学園 中学校・高等学校
- 東京都 東京大学教育学部附属 中等教育学校
- 東京都 佼成学園女子 中学校・高等学校
- 大阪府 大阪学芸 中等教育学校
- 東京都 東京都立日比谷 高等学校
- 東京都 東京都立西 高等学校
- 東京都 東京都立国立 高等学校
- 東京都 東京都立八王子東 高等学校
- 東京都 東京都立戸山 高等学校
- 東京都 東京都立青山 高等学校
- 神奈川県 神奈川県立横浜緑ヶ丘 高等学校
- 兵庫県 兵庫県立鳴尾 高等学校
- 兵庫県 兵庫県立西宮今津 高等学校
- 兵庫県 兵庫県立川西明峰 高等学校
- 兵庫県 兵庫県立舞子 高等学校
- 兵庫県 神戸市立六甲アイランド 高等学校
- 兵庫県 神戸常盤女子 高等学校
- 千葉県 千葉県立館山総合 高等学校
- 東京都 東京家政大学附属女子 中学校・高等学校
- 東京都 立教池袋 中学校・高等学校
- 千葉県 芝浦工業大学柏 中学校・高等学校
- 神奈川県 公文国際学園 中部部・高等部
- 東京都 海城 中学校・高等学校
- 京都府 京都教育大学附属京都 中学校
- 福岡県 福岡県立福岡 高等学校
- 滋賀県 滋賀県立河瀬 中学校・高等学校

## CONTENT

- 知事挨拶 ..... 02
- ホープツーリズム(教育旅行版)とは... 04
- インプット  
[見る] — 地震・津波・原発事故... 06
- エネルギー・新しい産業... 09
- インプット  
[聞く] — ヒューマン ..... 10
- 福島の高校生との交流... 13
- アウトプット  
[考える] — ワークショップ・手法事例... 14
- 学年行事  
(修学旅行・オリエンテーション等)  
対応プログラム ..... 18
- ホープツーリズムと様々な教育旅行  
コンテンツの組み合わせ ..... 21
- 学びのテーマに応じた実施事例 ..... 22
- 学びをサポートする学習教材 ..... 29
- ホープツーリズムに関する総合窓口... 29
- 参加者の声 ..... 30

# 福島で感じる希望。それは明日の学びの原動力。

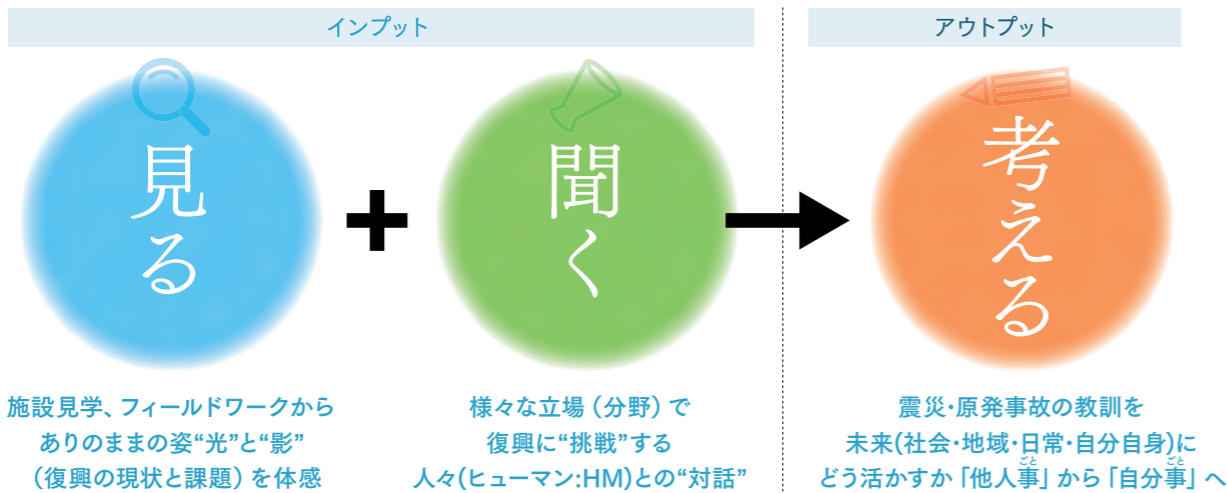
ホープ

## 「ホープツーリズム（教育旅行版）」とは

～福島県が推進する震災・原発事故の被災地域をフィールドとした新しい教育旅行プログラム～

世界で類を見ない複合災害(地震・津波・原発事故)を経験した唯一の場所  
その事実、教訓、復興への挑戦からの学びは「震災・防災学習」という限定的な視点では収まらない  
複合災害の教訓等から「持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する」総合的・横断的な学び

地震・津波、原発事故という世界で類を見ない複合災害を経験した福島の「ありのままの姿(光と影)」と、様々な分野で「復興に挑戦する人々(ヒューマン)との対話」を通じたインプット。震災・原発事故を「福島だけのローカルな問題(他人事)」と限定化せずに、教訓等を「持続可能な社会・地域づくりの実現、日常生活、自分自身の行動変容等」の「これからの未来」に視野を広げ、自分事としてどう活かすのか探究・創造するアウトプット。この一連のプログラムにより、アクティブラーニングの手法を用いた「主体的・対話的で深い学び」を実現します。福島を学ぶことで感じる希望は、生徒一人ひとりに、これからの成長につながる「学びの種」をもたらす、「明日の学びに向かう原動力」を育みます。



## ホープツーリズム、最重要ポイント

**FP** ツアーにはアテンド、ファシリテートを担当する総合案内人「フィールドパートナー (FP)」が同行し、中立・客観的立場から生徒の力を引き出し、生徒主体の学びを一緒に創り出します。

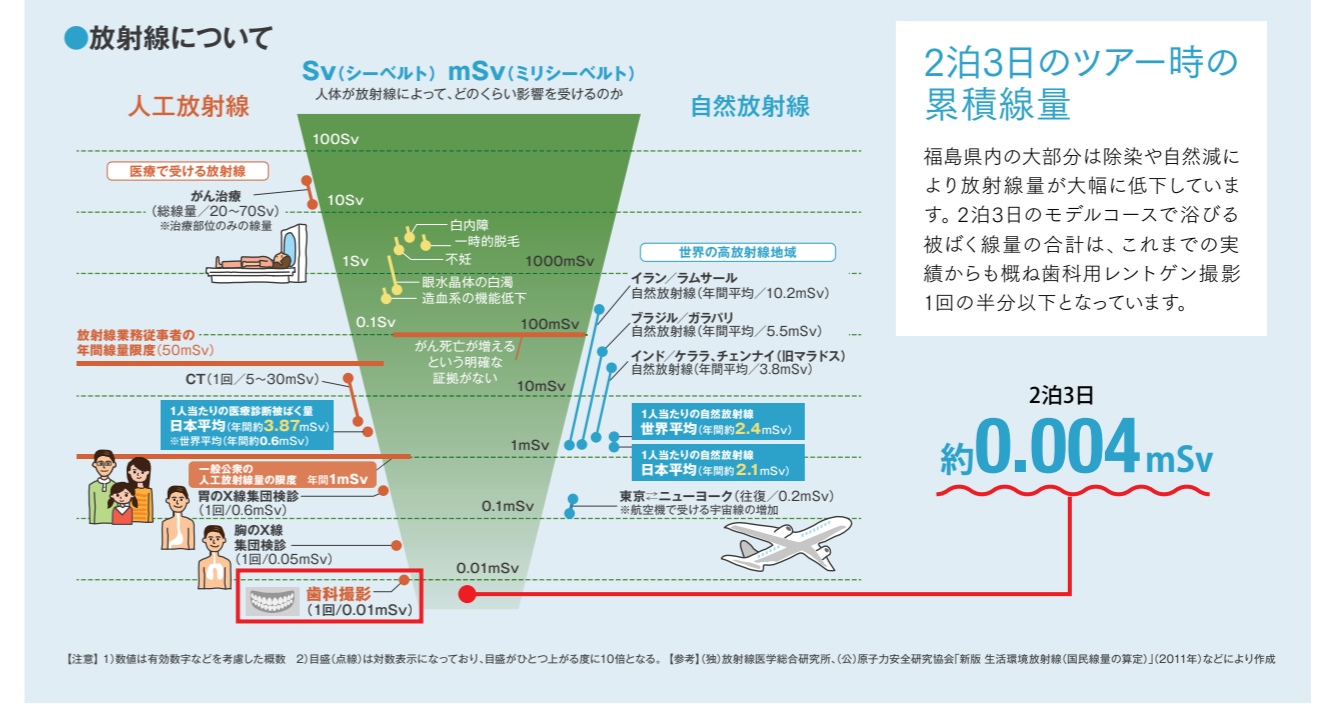
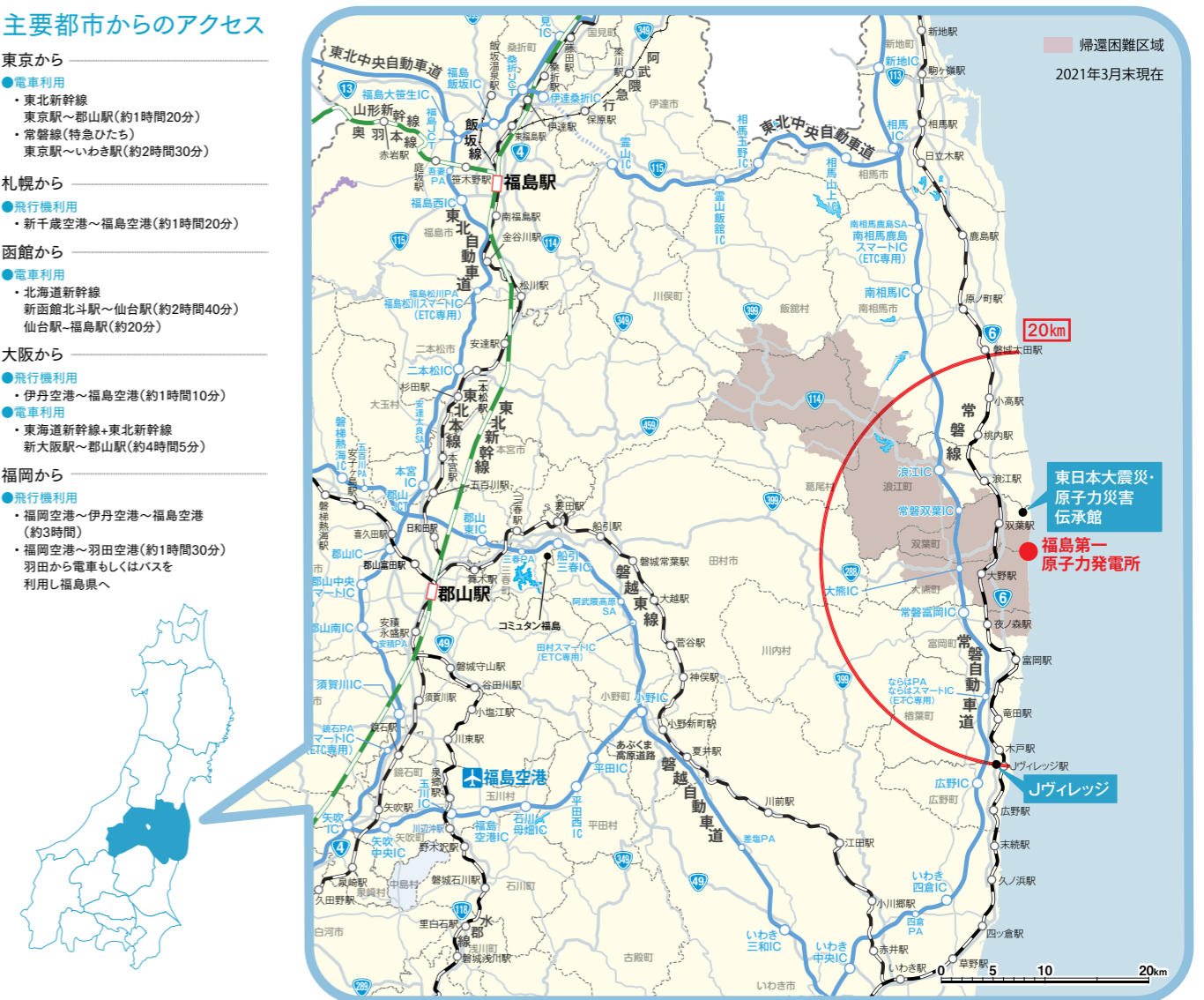


- FPの担う役割**
- **インプット (中立・客観的立場)**
    - 震災・原発事故、復興に関する情報の伝達
    - 施設等の見学後、ヒューマンとの対話後の情報整理、補足説明
      - ▶ 論点の明確化、多様な視点への展開
    - 随所の問い立て・介入
      - ▶ 生徒の探究心や学びに向かう力を引き出す
  - **アウトプット (振り返り・ワークショップ) の企画・運営**



### 主要都市からのアクセス

- 東京から
- 電車利用
    - ・東北新幹線 東京駅～郡山駅(約1時間20分)
    - ・常磐線(特急ひたち) 東京駅～いわき駅(約2時間30分)
- 札幌から
- 飛行機利用
    - ・新千歳空港～福島空港(約1時間20分)
- 函館から
- 電車利用
    - ・北海道新幹線 新函館北斗駅～仙台駅(約2時間40分)
    - 仙台駅～福島駅(約20分)
- 大阪から
- 飛行機利用
    - ・伊丹空港～福島空港(約1時間10分)
  - 電車利用
    - ・東海道新幹線+東北新幹線 新大阪駅～郡山駅(約4時間5分)
- 福岡から
- 飛行機利用
    - ・福岡空港～伊丹空港～福島空港(約3時間)
    - ・福岡空港～羽田空港(約1時間30分) 羽田から電車もしくはバスを利用し福島県へ



2泊3日のツアー時の累積線量  
福島県内の大部分は除染や自然減により放射線量が大幅に低下しています。2泊3日のモデルコースで浴びる被ばく線量の合計は、これまでの実績からも概ね歯科用レントゲン撮影1回の半分以下となっています。

2泊3日  
約0.004mSv

光も、影も。報道だけでは  
分からない福島の「今」を

# 見る

復興に向け確かに歩み出している地域、原子力に依存しない社会を目指した再生可能エネルギーの積極的導入など、未来を担う新しい取組みが始まっています。一方、長年の避難指示による地域への影響を感じる街並み、壊れたままの建物、避難指示が継続中の地域…。

生徒たちは実際に自分の目で見て初めて、東日本大震災と原発事故が福島の人々の暮らしに与えた影響の大きさを理解できたと話していました。報道だけでは伝わらない“光と影”。その光景が「福島の今」です。

※放射線量が高く立ち入りが制限されている地域や、立ち入りに特別な許可が必要な場所への訪問は行っていません。



国道6号から見える、福島第一原子力発電所の廃炉作業のクレーンなど。

## 東日本大震災・原子力災害伝承館（詳細はP19）

未曾有の複合災害の記録や教訓、復興のあゆみを国内外に伝え、将来へ引き継ぐための施設。館内の映像や展示などの豊富な資料から、震災・原発事故直後から現在までの経過・復興のあゆみの全体像を学ぶことができます。



## 東京電力廃炉資料館

東京電力の情報発信施設。映像やジオラマの展示により、原発事故当時の状況、事故の教訓や廃炉進捗状況などについて学ぶことができます。



## 国道6号（一部、帰還困難区域）

帰還困難区域内の家屋や店舗の入り口にはバリアードが設置され、原発事故がもたらした影響を感じる場所です。



## 除染に伴い発生した除去土壌などがつまったフレコンバッグ

県内に点在する除去土壌の仮置場。美しい風景の中から突如、姿を現すフレコンバッグは、原発事故の影響を実感する光景のひとつです。



## 福島県環境創造センター交流棟（コミュタン福島）

震災・原発事故の概要、放射線の正しい知識、これからの福島の環境再生について理解を深めることができます。



## JAEA 橋葉遠隔技術開発センター

福島第一原子力発電所の廃炉を推進するために遠隔操作機器の開発・実証実験を行う研究施設。ロボットの遠隔技術や原子炉建屋内の一部を再現したVRを体験し、最先端の廃炉研究を見学することができます。



## 特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま

特定廃棄物などの埋立処分について学べる体験型の情報館。埋立処分事業の概要、安全対策、進捗状況などについて学ぶことができます。



## 中間貯蔵工事情報センター

中間貯蔵施設は、除染により発生した土壌等を最終処分まで集中的に貯蔵する施設。情報センターでは、中間貯蔵施設の概要、工事の進捗や除染土壌等の処理の流れを展示や映像等で学ぶことができます。



# 「あの日」の爪痕 今なお残る

原発事故の印象の強い福島県ですが、沿岸部では最大10mを超える津波が押し寄せ、各地に甚大な被害をもたらしました。原発事故の影響で復興が遅れている地域には、今も津波被害の爪痕が残っています。



建物の多くが津波で流された地域は、草が生い茂り、目の前に海が広がります。震災後「こんなに海が近いとは思わなかった」と話す住民は少なくありません。

## 浪江町立請戸小学校

海岸から約200mに立地。校舎は津波に呑まれ半壊しましたが、迅速な判断と避難により奇跡的に犠牲者は出ませんでした。今なお被災当時の様子がほぼそのまま残っています。



## 浪江町営大平山霊園

犠牲者への鎮魂、後世への訓戒のために、慰霊碑が建立されています。海岸から約2km離れた高台にあり、津波被害の状況を一望することができます。



# フィールドワークで 復興の現状・課題を体感

原発事故により設定された避難指示区域も解除が進んでいます。復興に向かう確かな息吹や住民の帰還に向けて解決すべき課題、持続的に発展可能な新しい地域づくりについて、フィールドワークを通じて、五感で感じることができます。

## 檜葉町復興拠点（笑ふるタウンならは）

檜葉町の復興拠点。生活機能（住宅、医療機関、商業施設、交流施設等）を集約したコンパクトタウンが整備されており、避難指示解除後の地域コミュニティ再生の現状・課題等を体感することができます。



## JR双葉駅周辺

JR双葉駅を中心とした双葉町の特定復興再生拠点区域（居住が制限されている帰還困難区域内のうち将来的な避難指示解除を目指すエリア）。街並みの様子から震災・原発事故の影響を実感します。



※双葉町の特定復興再生拠点区域のうち、JR双葉駅周辺の避難指示は2020年3月に先行解除されました。

# 未来に羽ばたく 新しいエネルギー

福島県では原発事故を受け、原子力に依存しない社会を目指して再生可能エネルギーの導入などに積極的に取り組んでいます。大正期の水力発電以来、首都圏へのエネルギー供給を担ってきた福島県の歴史や新たな挑戦からエネルギーと地域との関わり、これからのエネルギーについて学ぶことができます。



## 富岡復興メガソーラー・SAKURA

富岡復興エネルギー合同会社が運営する太陽光発電所。原発事故の影響で増加した遊休農地を活用して、約11万枚の太陽光パネルを設置。売電した利益の一部を復興に役立てています。



# 復興を担う 新しい産業

福島県では震災・原発事故によって失われた浜通り地域等の産業・雇用を回復するため、新しい産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」が始動しています。廃炉やロボット技術の研究開発、エネルギー関連産業の集積など最先端の取り組みについて学ぶことができます。



## 福島ロボットテストフィールド

物流やインフラ点検、大規模災害等に対応するロボットを対象に、実際の使用環境を再現した実証フィールドで研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができます。一大開発実証拠点です。



## Jヴィレッジ（詳細はP19）

日本初のサッカー・ナショナルトレーニングセンターでサッカー日本代表の合宿も行われました。震災直後は原発事故の対応拠点として使用されていましたが、復旧が進み、2018年7月に一部営業を再開。2019年4月には全面再開を果たしました。



# 挑戦を続ける人々 福島の「想い」を

# 聞く



震災、津波、原発事故、風評……。未曾有の困難の中で、それでもなお前へ進もうと果敢にチャレンジする人々が、福島にはたくさんいます。そうした人々をホープツーリズムでは「ヒューマン」と呼んでいます。

故郷を取り戻すため。人々に笑顔を取り戻すため。次世代のため。挑戦を続けるヒューマンたちとの対話から、多くの刺激や気づきを得ることができます。

現地でたくましく活動するヒューマンたち。その情熱や想い、葛藤や覚悟に、心が大きく揺さぶられます。時には涙する生徒も。

## 東京電力社員へ質問



東京電力の社員に直接質問して、廃炉の進捗状況や原発事故の実態に迫ります。

## 同世代との交流



同世代だからこそ語り合えること。福島で暮らし、学ぶ高校生たちとの交流から大きな刺激と学びを得ます。

## ヒューマンとの対話

### 今こそ見直される<sup>ゆい</sup>“結”の精神



一般社団法人  
葛力創造舎 代表理事  
したえだ ひろのり  
下枝 浩徳さん

震災を契機に故郷の福島県にUターン。震災と原発事故により人手不足が深刻化した葛尾村を活性化するために、支え合いの精神“結”をヒントに活動中。地域コミュニティの再構築のため、地域と首都圏を結ぶ交流事業にも力を入れています。

### 地域活性化のヒントは「支え合い」

震災と原発事故により過疎が深刻化している葛尾村を題材に、日本が直面する人口減、地域の衰退とどう向き合うかについて議論します。

下枝代表は、日本に昔からある地域内の支え合いの精神“結”を発展させ、外部の人も巻き込む「現代版“結”」について紹介。

「幸せて何だろう」、「見えないものを大事にすべき」等の発言は都会に住む生徒たちの心に大きく響きます。



## ヒューマンとの対話

### 答えが見えにくい 課題に「対話」で向き合う



一般社団法人  
AFW 代表理事  
よしかわ あきひろ  
吉川 彰浩さん

元東京電力社員。福島第一原発、第二原発に14年勤務。震災時は福島第二原発で復旧業務に尽力していましたが、2012年に同社を退職し、(一社)AFWを設立しました。廃炉等の現状について専門的な用語をかみ砕き、一般市民にも分かりやすく解説する取り組み等を通し、廃炉、復興という答えが見えにくい課題に「対話」によって向き合う活動を行っています。

### 廃炉とは何か。復興とは何か。 いつでも「主語は自分」

福島第一原発のジオラマを活用して、原発事故の状況や廃炉の現状について分かりやすく説明します。元東京電力社員、地域住民等の多様な視点から廃炉や復興について対話することができます。

「廃炉や復興を考える上で大切な視点は、主語を“自分”に置き換えて考えること」と訴える吉川代表。

震災・原発事故の教訓から何を学び、自分たちの地域や生活にどのように活かすのかを考える場です。



**HM** 福島には各分野で復興に向け果敢にチャレンジする人々がたくさんいます。ヒューマンとの対話を通して多様な視点から、震災・原発事故の状況、復興に向けた取組や課題について学ぶことができます。

医療・福祉

震災を通して  
リーダーのあり方を考える

南相馬市立総合病院 院長  
おいかわ ともよし  
及川 友好さん



震災当時、福島第一原子力発電所から23kmに位置する中核病院で副院長として現場の指揮を執る。原発の状況が深刻化する中、「病院を、患者を、スタッフをどうするべきか…」自らが下した決断や葛藤を題材にリーダーのあり方について語ります。

住民

「あの日」起こったこと、  
住民の率直な想いを伝える

浪江まち物語つたえ隊  
おか ようこ  
岡 洋子さん



地域の民話・昔話をはじめ、震災・原発事故の実話をもとに紙芝居やアニメーションを製作し、住民目線でふるさとの記憶や震災・原発事故の記憶・教訓を伝え続けています。

農林水産業

ふるさとに戻り、  
畜産農家の誇りを取り戻す

飯館村畜産農家  
やまだ たけし  
山田 猛史さん



震災前、ブランド牛として高い評価を受けていた飯館牛を飼育・出荷していた畜産農家。震災後も、風評被害など、多くの逆境に立ち向かい畜産業を継続。「飯館牛」の復活に挑戦しています。

防災・減災

災害はあなたの住む街にも  
やって来る

福島大学つくしまふくしま未来支援センター 特任教授  
あまの かずひこ  
天野 和彦さん



福島県内最大級の「ビッグパレットふくしま」避難所の運営責任者。誰も経験したことのない原発事故により長期化した支援活動の実体験を踏まえ、「避難所運営シミュレーション教材(P17参照)」を開発。震災を人権の視点で捉え、その教訓や知見を発信しています。

教育・人材育成

社会課題に向き合う若者を育成  
～“憧れの連鎖”が未来を拓く～

一般社団法人 あすびと福島 代表理事  
ほんがい えいじゅ  
半谷 栄寿さん



元東京電力執行役員。南相馬市小高区出身。復興を担う人材育成のため、高校生・大学生対象の社会起業塾等を主催。「自立した若者が憧れの対象となり、後輩が続く“憧れの連鎖”こそ、未来を拓く原動力になる」との想いから、次世代の育成に挑戦しています。

地域づくり

“ひとりひとりの復興”へ  
向かって

なみとも代表  
こばやし なおこ  
小林 奈保子さん



復興支援員の経験を活かし、避難指示が一部解除された浪江町でリアルな情報発信を行っています。「価値観の違いを受け入れ“ひとりひとりの復興”へ一緒に歩む」をモットーにコミュニティの再生に尽力しています。



福島の高中生との交流で  
同世代の「**想い**」を聞く

福島県内の学校との交流や、高校生との共同ツアーなどを通じて、福島県の高中生たちと交流することも貴重な経験です。復興に向け様々な活動に取り組む福島の高中生から直接、同世代の想いを聞くことができます。

同世代の想いを聞く

震災当時の様子やその後の生活、復興に向けた想いなど、同世代ならではの感覚で語り合います。



福島の高中生と一緒にツアー



福島の高中生とともにツアーを実施することで、県内と県外の視点の違いに気づき、考え方や知識を共有できます。同世代の震災経験談はもちろん、原発事故や復興への想いについて聞き、お互いを刺激し合います。

一緒にワークショップ

ともに考え、意見を交換。福島で暮らし、学ぶ同世代からは、多くの気づきを得ることができます。



# 福島の問題を 「他人事」から「自分事」へ 考える

ツアーでは毎日、夕食後に「振り返り(リフレクション)」の時間を設けるほか、ツアー最終日には「見る」「聞く」を通じて学んだことを深め、アウトプットするワークショップを実施します。ワークショップでは、震災・原発事故により顕在化した様々な社会課題(人口減、高齢化、地域の衰退、エネルギー問題等)は「福島だけの問題」ではなく「日本社会やそれぞれの地域が抱え、解決すべき問題」であるという視点に立ち、自分たちがどのような未来を創っていききたいかなどについて話し合います。



福島にきたからこそ得られた知識と経験。仲間たちと協力し合い、刺激し合って日本や地域の未来を考えます。未来を語る表情は真剣そのもの。福島で成長した生徒たちの姿がそこにあります。

## 1日の振り返り(リフレクション)

毎日、夕食後に振り返り(リフレクション)を行い、疑問や気づきなどを共有することで情報を整理。スムーズに最終日のワークショップに臨むことができます。仲間同士でも、感じ方や考え方には違いがあり、語れば語るほど視野が広がります。



## ワークショップ

最終日にはまとめのワークショップを実施。ツアーでの学びを踏まえ、次世代を担う自分たちは、どんな未来を創っていききたいかについて、ひとりひとりが社会を担う当事者として「自分事化」します。



### 持ち帰り・学びの成果

福島の課題(限定的事象)

社会・地域・日常・  
自分自身へ繋げる  
(一般化)

福島で感じた希望。  
それは明日の学びの原動力。  
生徒自身の成長へ!

### ●社会・地域課題の発見▶探究心・自分事化の重要性

課題は様々な要素が絡み合い、簡単に解決しないという事実との対峙(“もやもや感”)→「考え続けること(探究心・自分事化)」の重要性への気づき  
→主体的・創造的な探究活動・課題解決の資質・能力(学び方・考え方)の育成

### ●社会課題は立場や考え方によって様々な意見がある 多様性の尊重と対話の重要性

AorBの二者択一ではなく、議論によって第三の道(C)が開かれる視点

### ●情報過多の社会において、物事の本質を見極める力や判断力 (リテラシー)

情報とどう向き合い判断するか。自分で見聞きした生の情報の重要性

### ●変化や逆境への向き合い方(自己のあり方・生き方) ▶自分自身の行動変容

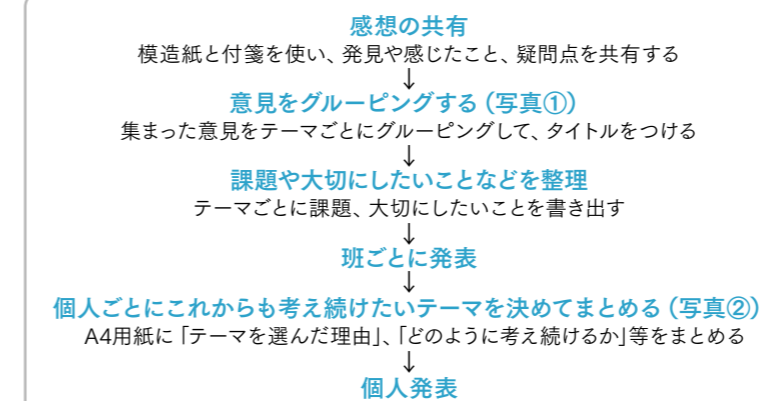
進路選択や生き方について希望と不安の狭間に立つ生徒に挑戦する心を育む

## ▼CASE1 考える

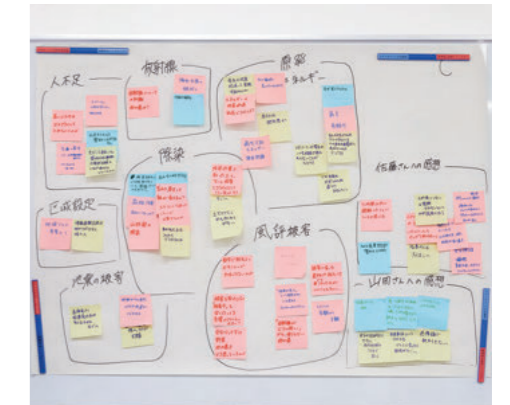
千葉県立船橋高等学校 千葉市立千葉高等学校  
千葉県立佐倉高等学校

### 「自分自身がこれからも考え続けたいこと」の発見

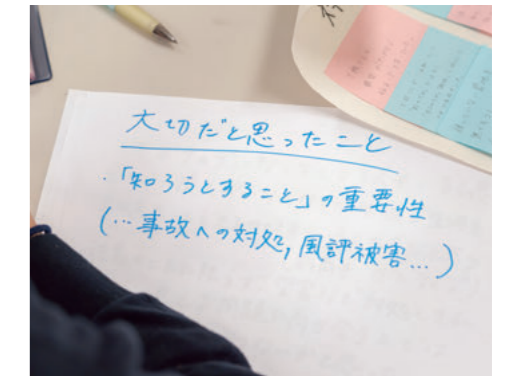
ツアーを通して見えてきた簡単には解決しない社会問題。「答えが簡単に出ない問い」と今後、どう向き合い、考え続けて行くかについて、班内での共有・整理後に、最終的に個人に戻して学びを深めます。生徒に考え続けること(探究心・自分事化)の重要性を感じてもらい、学びに向かう姿勢を育みます。



### ①意見をグルーピングする



### ②個人ごとにテーマを決めてまとめる



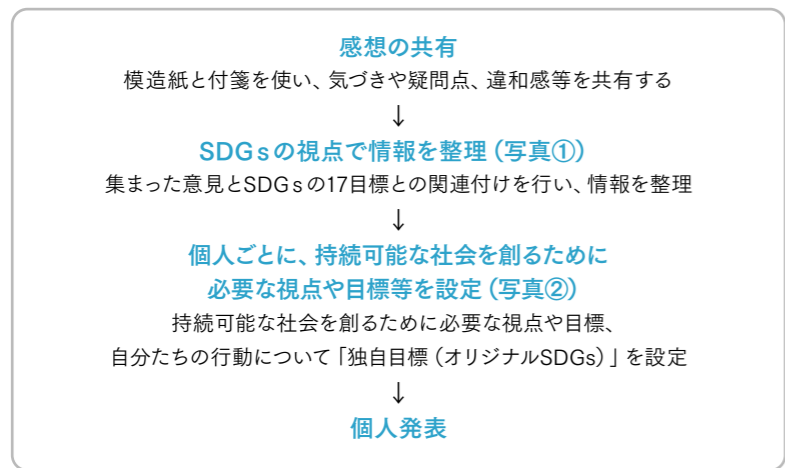


## ▼CASE2 考える

海城中学校・高等学校

### SDGsの視点から持続可能な社会のあり方を考える

ツアーでの学びをSDGsの視点(17目標)で整理し、社会課題と日常生活との関連性を理解します。最終的に、持続可能な社会を創るために必要な視点や目標、自分たちの行動について「独自目標(オリジナルSDGs)」を設定し、学びを「自分事」として落とし込みます。



### ①SDGsの視点で情報を整理



### ②個人ごとに独自目標(オリジナルSDGs)を設定



## ▼CASE4 考える

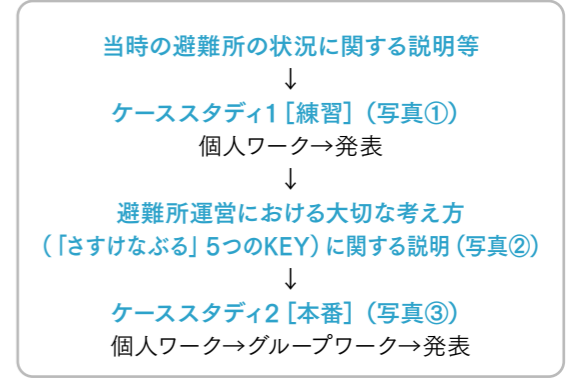
### 防災・減災をテーマとしたワークショップ 避難所運営シミュレーション

避難所運営の実際の事例を基に開発されたケーススタディ等から災害を人権の視点で捉え直し、危機意識の向上、災害時に自分が経験するであろう避難所での共同生活に必要なコト、自分の役割、取るべき行動等に繋げるワークショップです。

#### さすけなぶる研究会

### 避難所運営シミュレーション教材「さすけなぶる」

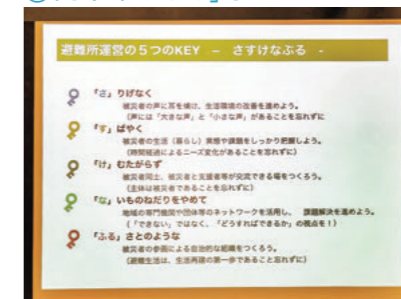
福島県内最大級の避難所「ビッグバレットふくしま」の運営で実際に起きた事例(正解のない問題)を運営スタッフとして解決する意志決定シミュレーションを行います。



### ①避難所で実際に起きたリアルなケーススタディ



### ②「さすけなぶる」5つのKEY



### ③各グループで出した意見を発表

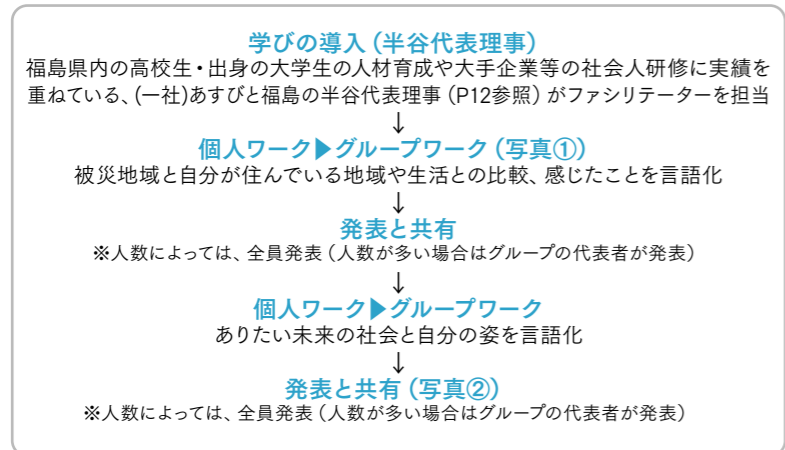


## ▼CASE3 考える

(一社)あすびと福島

### 福島に向き合うことを通して、自分自身と日本社会の未来に向き合う

被災地域での体感と地元リーダーとの対話を踏まえ、震災・原発事故の事実、復興の現状・課題という福島の過去や現在に向き合うことを通して、自分の地域や日本社会全体の課題と自分自身に向き合うことを主眼に置いたアウトプットを実施。「自分の地域や社会の未来をどうしたいのか、自分はどんな未来を創りたいのか(ありたい社会を想像し、ありたい自分を探す)」をテーマに対話を深め、自分自身への内省や探究を通し、行動変容のきっかけを持ち帰ります。



### ①自分たちの地域・生活との比較から未来に向けた課題を抽出



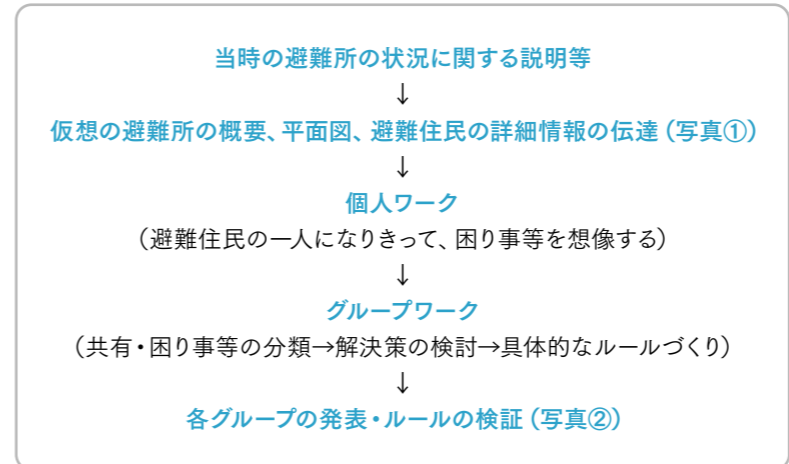
### ②「ありたい社会」を創造し、自分自身に向き合いながら「ありたい自分」を探す



#### (一社)とみおかプラス

### 避難所運営シミュレート

原発事故の影響で全町避難を余儀なくされた富岡町。富岡町の行政職員が実際に対応した「避難所での共同生活に必要なルールづくり」をワークショップ形式で疑似体験します。



### ①リアルな避難所と避難住民の設定が想像力を育む

#### 住民グループA

【性別】男性  
 【年齢】30代  
 【家族】妻・子(幼児)  
 【特性】社会福祉協議会議員

<被災から避難所に至るまで>  
 ○休暇中、家族と出かけている時に被災  
 ○社会福祉協議会のデイサービスセンターの所長及び利用者(高齢者7名)と合流し、避難所へ移動  
 ※デイサービスセンターの所長及び利用者はその後の避難所へ移動

### ②自分たちが作成したルールは「実際の避難所で通用するのか」を検証



学年行事（修学旅行・オリエンテーション等）対応プログラム

# 東日本大震災・原子力災害伝承館を核とした「学年行事規模の教育旅行」に対応のホープツーリズム

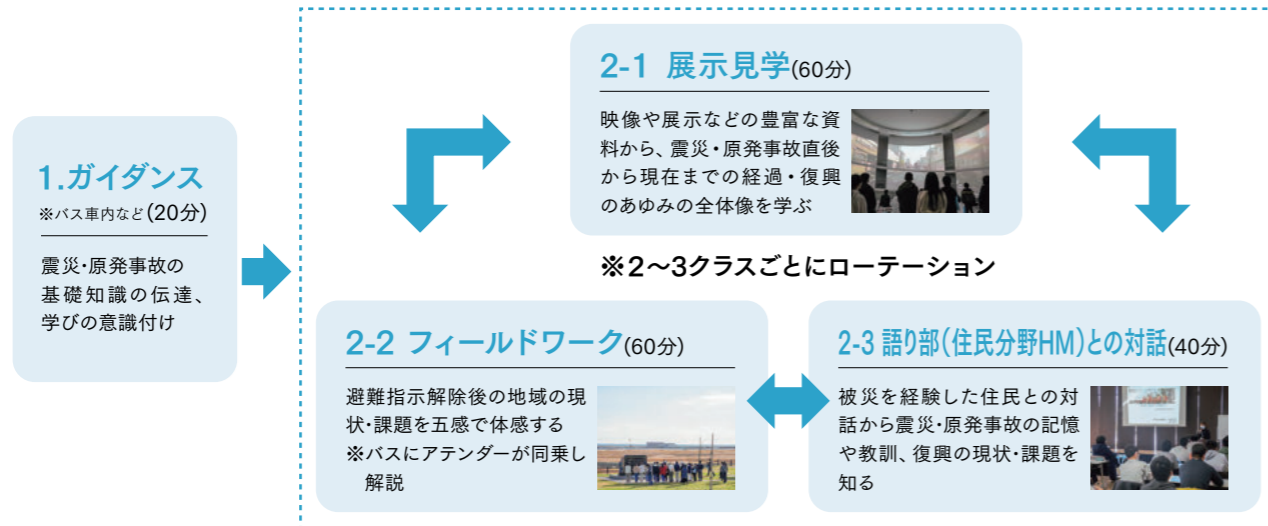
ホープツーリズムの基本コンセプト（見る、聞く、考える）を踏まえながら、学年行事規模の教育旅行に対応したプログラムです。2020年9月にオープンした東日本大震災・原子力災害伝承館で、震災・原発事故の概要、復興の現状・課題に関する基礎知識等を学び、ツアーの意識合わせを行った上で、学びのテーマ（地域づくり、農林水産業、医療・福祉、原発・廃炉、エネルギー、環境回復、教育、新産業など）や各自治体に分かれ、コース別の選択学習を行います。最後に全体の共有・アウトプットを行い、学びを深めます。

## ①～③のプログラムを取捨選択→組み合わせることで、数時間～2日間のオーダーメイドの行程作成が可能

※6クラス（バス6台・240名程度）～9クラス（バス9台・360名程度）を例にして掲載

### ①【共通学習】伝承館プログラム（インプット）

伝承館の一般研修プログラムで震災・原発事故、復興の全体像を把握



### ②【選択学習】周辺地域での選択プログラム（インプット）

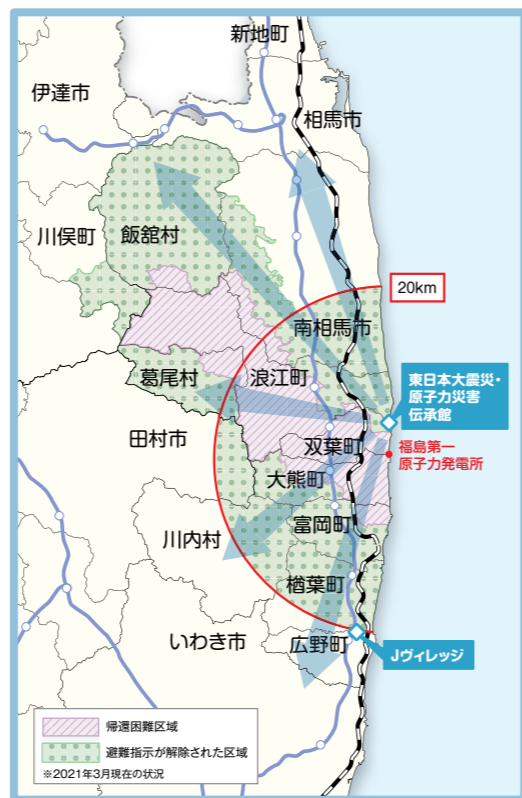
1～2クラスに分かれ、学びのテーマ等に応じた選択学習(コース別)を実施(3～4時間程度) ※内容によっては、全クラス【共通学習】での実施も可能

- 一定の分野(テーマ)に焦点を当て、複合災害が与えた影響、復興への挑戦を学ぶ
- ・分野例：地域づくり、農林水産業、医療・福祉、原発・廃炉、エネルギー、環境回復、教育、新産業など
- ・内容：各分野のHMとの対話+施設見学など
- 各自治体に焦点を当て、避難指示解除の時期により復興の現状・課題が異なる地域を学ぶ
- ・内容：新しいまちづくりに挑戦する地域団体(HM)との対話+フィールドワークなど

### ③【共通学習】まとめのワークショップ等（アウトプット）

震災・原発事故の教訓をこれからの持続可能な社会・地域づくり等にどう活かすか考える「他人事→自分事化へ」(60分～)

- 避難所運営シミュレーション教材(P17参照)
  - 復興の現状・課題から一定のテーマを設定しディスカッションを実施
  - 振り返り・まとめのワークショップ
- ※振り返り等は研修後の事後学習として、オンライン上でフィールドパートナーのファシリテートにより実施することも可能



## 東日本大震災・原子力災害 伝承館



## 未曾有の複合災害の記録や記憶を保存・展示する学びの導入拠点

館内の映像や展示などの豊富な資料から、震災・原発事故直後から現在までの経過・復興のあゆみの全体像を学ぶことができます。正にホープツーリズムの学びの導入拠点。

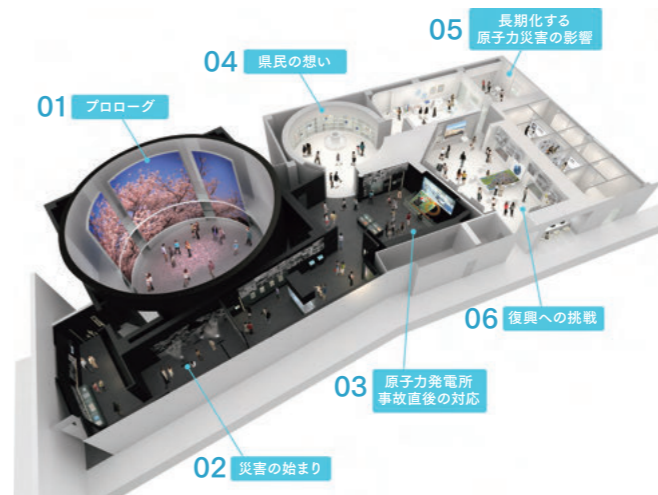


**01 プロローグ(導入シアター)**  
展示の導入として、震災前の地域の生活、地震・津波そして原子力発電所事故の発生から住民避難、復興や廃炉に向けた取組について、床面を含めた7面スクリーンの映像を使い発信します。

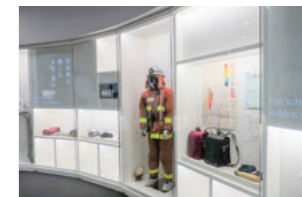
**02 災害の始まり**  
震災前の平穏な日常から、地震と津波、それに続く原子力発電所事故。事故前・事故発生時・事故直後の経過を時系列でたどり、原子力災害の始まりを克明に、臨場感と共に発信します。



**03 原子力発電所事故直後の対応**  
原子力発電所事故後の避難、避難生活の変遷、国内外からの注目など、原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、証言などをもとに振り返ります。



**04 県民の想い**  
震災前の平穏な「故郷の日常」と、「日常」が原子力発電所事故を機にどのように変わってしまったのか、様々な県民の想いを、証言や思い出の品などの展示を組み合わせて発信します。



**05 長期化する原子力災害の影響**  
原子力災害が長期化する中で、発生した様々な影響とその対応について資料や解説を通して発信します。

**06 復興への挑戦**  
困難を乗り越え復興に挑戦する福島県の姿を紹介。廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの行政の取組、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信します。



## ～福島復興のシンボル・サッカーの聖地～ ホープツーリズムの拠点としてwithコロナに最適な宿泊施設

原発事故対応の前線基地から交流人口拡大の拠点への軌跡を学ぶことができることはもちろん、学年行事規模の教育旅行に対応できる充実した宿泊、食事、会議室等の環境が整っています。



**●宿泊**  
90室シングル客室をはじめ、ツイン・4THなど多彩なバリエーションの客室が200室あり、コロナ禍に対応した客室のご提供がしやすい施設です。



**●レストラン**  
グランドの景観が素晴らしい200名収容のレストランハーフタイムをはじめ施設内には大小宴会場があり、大規模団体の受け入れも可能です。



**●食事**  
アスリートを支える豊富な経験を活かし、各種団体のニーズに合わせた、地域の食材を活かした食事をお楽しみ頂けます。



**●研修会場**  
160名収容のコンベンションホールのほか、大小研修会場はワークショップ・リフレクションなどの会場としてご利用頂けます。

福岡県立福岡高校（修学旅行）10クラス・約400名

事前学習

- 学習教材(P29参照)を活用し、学校主導で実施
- オンラインで福島側を交えた学習会を開催

ツアー中の内容

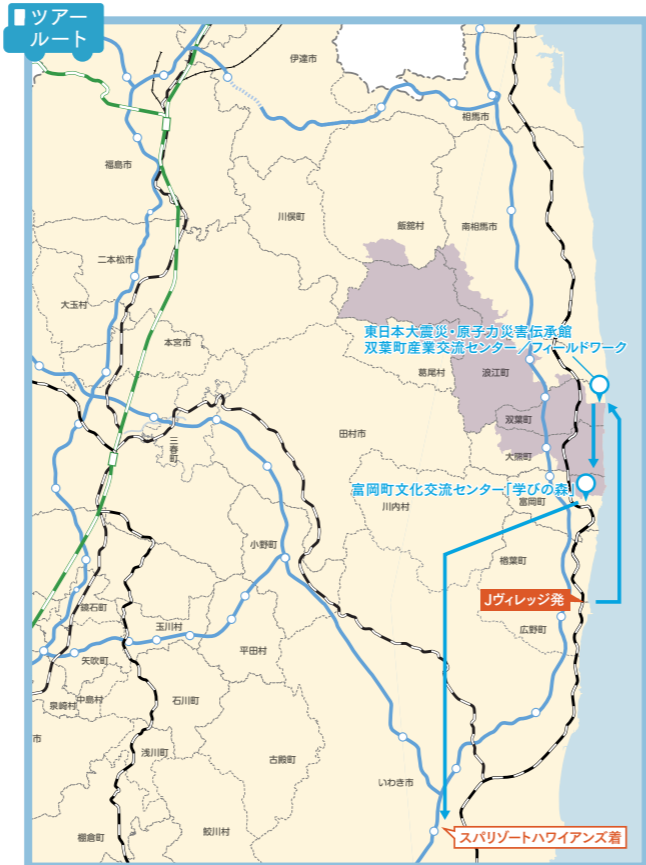
- 伝承館プログラムで震災・原発事故、復興の全体像を把握
- 以下の[分野(テーマ)]を選択
  - [防災・減災] 避難所運営シミュレーション教材「さすけなぶる」(P17参照)を使用したワークショップ
  - [原発・廃炉] 東京電力社員との対話

事後学習

P15 (CASE1考える) の事例を参考に「未来に向けて関わりたいことを考える」をテーマとして、学校主導でまとめのワークショップを実施

コース例 3泊4日

- 1日目 福岡空港 発→仙台空港 着  
→【宮城県】松島研修→【宮城県】南三陸町内の宿泊施設
- 2日目 【宮城県】南三陸町内・石巻市内で震災学習  
→【宮城県】仙台市内研修  
宿 泊 【檜葉町・広野町】Jヴィレッジ 着  
8:00 【檜葉町・広野町】Jヴィレッジ 発  
見 学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過  
見学対話 【双葉町】東日本大震災・原子力災害伝承館/双葉町産業交流センター  
伝承館プログラム(※2~3クラスに分かれて、ローテーション)  
● 伝承館見学 ● [住民]富岡町3・11を語る会  
ガイダンス ● フィールドワーク  
(浪江町沿岸部→大平山霊園→双葉駅周辺)
- 3日目 見 学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過  
【富岡町】富岡町文化交流センター「学びの森」  
食 事 お弁当  
対 話 【原発・廃炉】東京電力社員  
※2~3クラスに分かれて、ローテーション  
対話考える 【防災・減災】避難所運営シミュレーション教材「さすけなぶる」を使用したワークショップ  
18:00~18:30  
宿 泊 【いわき市】スパリゾートハワイアンズ  
4日目 →【宮城県】仙台駅周辺研修  
→仙台空港 発→福岡空港 着



帰還困難区域



Jヴィレッジに宿泊



フィールドワークで復興の現状・課題を体感



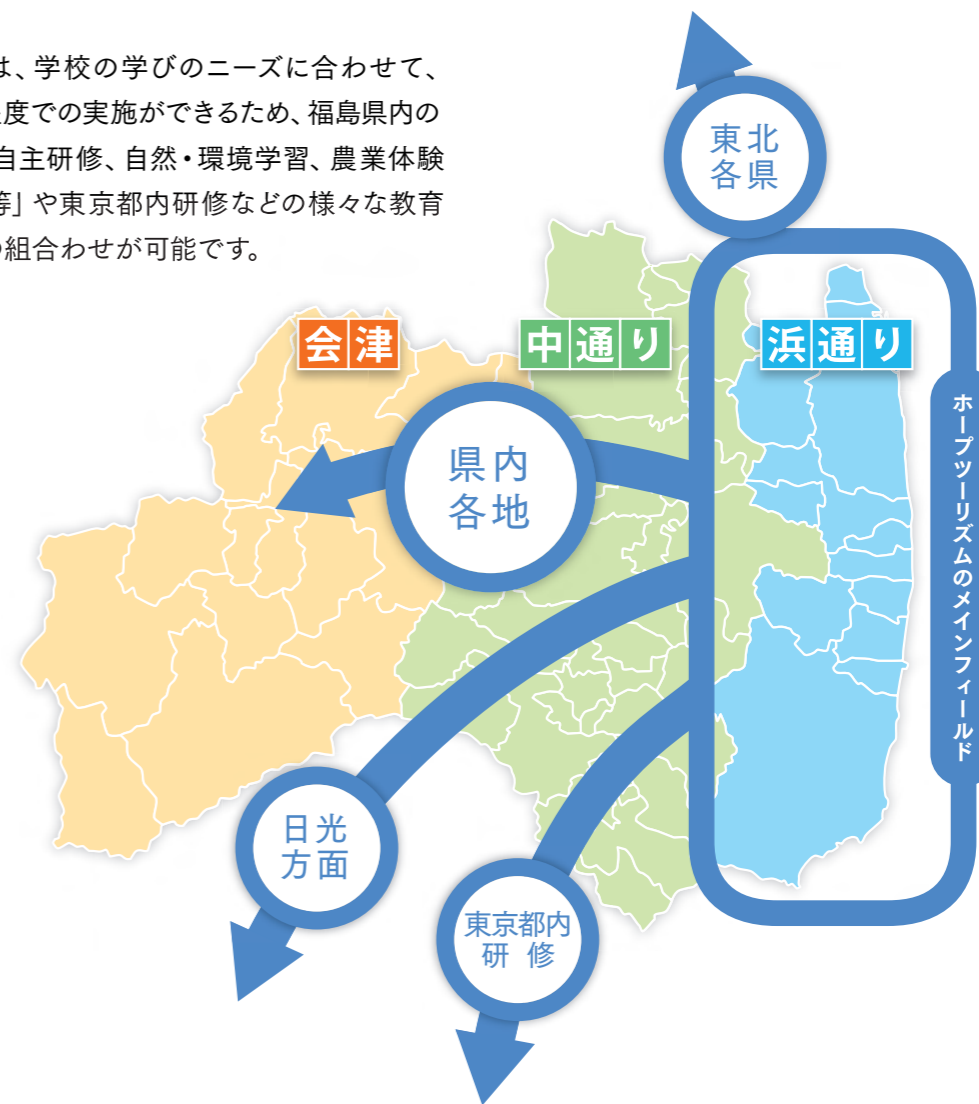
避難所運営シミュレーション(防災・減災をテーマとしたワークショップ)



学校に帰ってからまとめのワークショップを実施

ホープツーリズムと様々な教育旅行コンテンツの組み合わせが可能

ホープツーリズムは、学校の学びのニーズに合わせて、数時間から2日間程度での実施ができるため、福島県内の「歴史学習・班別自主研修、自然・環境学習、農業体験学習、スキー学習等」や東京都内研修などの様々な教育旅行コンテンツとの組み合わせが可能です。



福島県内の教育旅行コンテンツ(一例)

● 歴史学習・班別自主研修 (会津若松市など)

歴史の転換点となった戊辰戦争。会津若松市は重要な局面となった会津戦争が行われた舞台です。史跡や伝統ある街並みは、歴史学習・班別自主研修に最適です。



● 自然・環境学習 (裏磐梯エリア:猪苗代町、北塩原村など)

磐梯山の噴火が作り出した大自然を活かしたアクティビティが充実しており、季節に応じた自然体験や自然、景観を守る環境保全などの多様な学びが可能です。



● 農業体験学習 (喜多方市・南会津町など)

農家に宿泊して、各農家の普段の農作業や生活を体験します。素朴で温かい農家の方々とのコミュニケーションを通じた人間的な成長を育みます。



● スキー学習 (会津・中通りエリア)

上質のパウダースノーで滑りやすく、インストラクターが常駐しているスキー場が県内各地に点在しており、行程に合わせた効果的な実施が可能です。



## スタンダードコース例

# 福島の実況と課題について幅広い視点から学ぶ

福島の実況と課題について幅広い視点から学び、自分事として考えるための標準的なコースです。

震災・原発事故の被災地域でのフィールドワークに加え、住民、地域団体、医療者、農家、事業者など、様々な分野で復興に挑戦するヒューマンや東京電力社員との対話から福島の実況（光と影）と課題を理解します。

毎日、夕食後に行う「振り返り」で情報の整理や共有をします。ツアーで学んだことを踏まえ最終日のワークショップで、震災・原発事故により顕在化した様々な社会課題を「福島だけの問題」ではなく「日本社会やそれぞれの地域が考えるべき、自分たちの問題」と捉え、議論します。

### コース例

筑波大学附属駒場中学校・高等学校  
灘中学校・高等学校

2泊3日

- 1日目**
- 11:30 郡山駅 発 貸切バス
  - 見学・食事 【三春町】福島県環境創造センター「コミュニティ福島」
  - 対話 【葛尾村】「地域づくり」(一社)葛力創造舎 下枝代表理事
  - 宿泊 【楡葉町】展望の宿天神 着
  - 対話 【原発・廃炉】(一社)AFW 吉川代表理事
  - 考える 振り返り

- 2日目**
- 8:30 【楡葉町】展望の宿天神 発
  - 見学 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」
  - 対話 【原発・廃炉】東京電力社員
  - 見学 【富岡町】富岡復興メガソーラー・SAKURA
  - 食事 【大熊町】大熊食堂
  - 見学 【大熊町】大川原地区
  - 見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
  - 対話 【浪江町】「住民」浪江まち物語つたえ隊
  - 見学 【浪江町】フィールドワーク(請戸小、大平山霊園、浪江駅周辺)
  - 宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着
  - 対話 【医療】南相馬市立総合病院 坪倉医師
  - 考える 振り返り

- 3日目**
- 8:30 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発
  - 対話 【南相馬市小高区】「地域づくり」小高工房 廣畑さん
  - 対話 【飯館村】「農業」農家 高橋さん
  - 食事 【川俣町】食堂新川
  - 考える 【福島市】ワークショップ(テーブルファシリ:福島県立福島高等学校の生徒)
  - 16:50 福島駅 解散

### コース例

明治大学附属中野中学校・高等学校

1泊2日

- 1日目**
- 11:00 広野駅 発 貸切バス
  - 対話・食事 【広野町】「地域づくり」(一社)葛力創造舎 下枝代表理事
  - 見学 【楡葉町】楡葉遠隔技術開発センター
  - 見学 【富岡町】特定廃棄物埋立情報館「リプルンふくしま」
  - 見学 【富岡町】夜の森地区
  - 見学 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」
  - 対話 【原発・廃炉】東京電力社員
  - 宿泊 【楡葉町】展望の宿天神 着
  - 対話 【原発・廃炉】(一社)AFW 吉川代表理事
  - 考える 振り返り

- 2日目**
- 8:30 【楡葉町】展望の宿天神 発
  - 見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
  - 対話 【浪江町】「住民」浪江町行政会長 佐藤会長
  - 見学 【浪江町】フィールドワーク(請戸小、大平山霊園、浪江駅周辺)
  - 食事 【南相馬市原町区】旭亭
  - 対話 【飯館村】「農業」ニコニコ菅野農園 菅野さん
  - 考える 【福島市】ワークショップ
  - 17:50 福島駅 解散



福島県環境創造センター交流棟(コミュニティ福島)



ふるさとの味を受け継ぐ郷土料理の昼食



東京電力「廃炉資料館」



富岡町夜の森地区



大熊町大川原地区



浪江町内のフィールドワーク(浪江駅周辺を歩く)



浪江まち物語つたえ隊による紙芝居(震災・原発事故の体験談)



(一社)AFW 吉川代表理事と福島第一原発のジオラマを囲んで対話



浪江町行政会長 佐藤会長との対話(住民の視点から見た現状)



小高工房 廣畑さんとの対話(新たな地域づくりに向けて)

## テーマ別学習コース例① (文理融合教育対応プログラム)

# 科学技術の光と影、エネルギーと地域社会の関係性を学ぶ

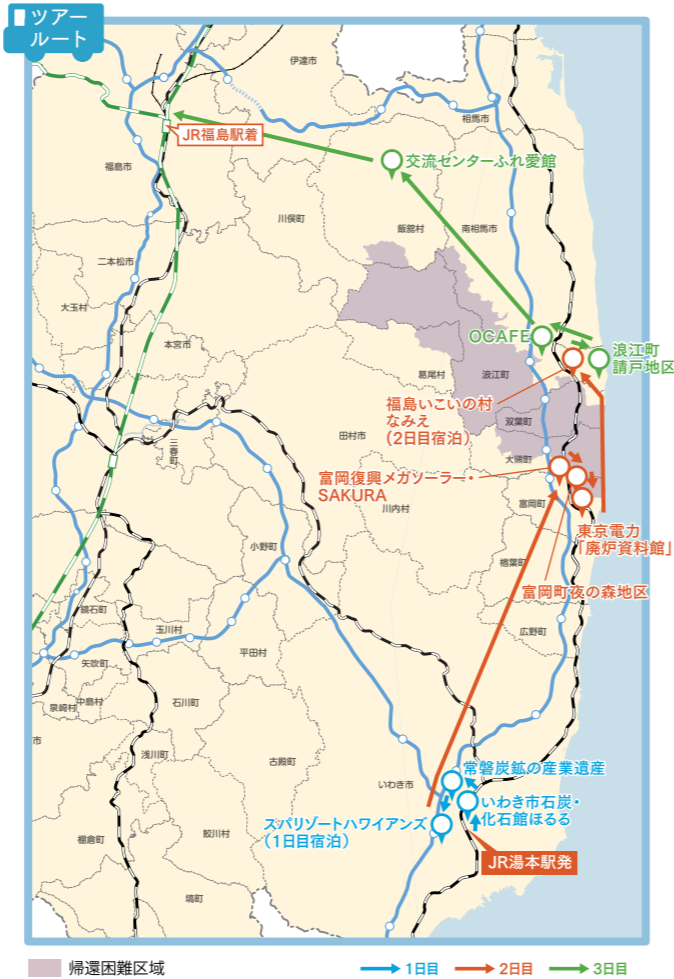
長年にわたり首都圏へのエネルギー供給を担い、エネルギー分野における科学技術の発展を支えてきた福島県。原子力、火力、再生可能エネルギーなどの発電施設等の見学やフィールドワークを踏まえ、科学技術の光と影に目を向け、エネルギーと地域社会の変遷、これからのエネルギーのあり方、豊かさとは何かについて考えを深める「文理融合型」のプログラムです。

### コース例

中央大学附属中学校・高等学校

2泊3日

- |     |   |
|-----|---|
| 1日目 | 11:30 湯本駅 発 貸切バス<br>見学 【いわき市】いわき市石炭・化石館ほるる<br>見学 【いわき市】常磐炭鉱産業遺産フィールドワーク<br>宿泊 【いわき市】スパリゾートハワイアンズ 着<br>対話 【エネルギー】常磐興産(株) 坂本顧問<br>対話 【原発・廃炉】(一社)AFW 吉川代表理事<br>考える 振り返り                |
| 2日目 | 7:50 【いわき市】スパリゾートハワイアンズ 発<br>対話 【富岡町】[原発・廃炉]東京電力社員<br>見学 【富岡町】富岡復興メガソーラー・SAKURA<br>見学 【富岡町】夜の森地区<br>見学 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」<br>見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過<br>宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着<br>考える 振り返り |
| 3日目 | 8:30 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発<br>見学 【浪江町】フィールドワーク(浪江駅、請戸小、大平山霊園)<br>対話・食事 【浪江町】[住民]浪江まち物語つたえ隊<br>対話 【飯館村】[原発・廃炉]原子力規制委員会 田中前委員長<br>考える ワークショップ<br>18:50 福島駅 解散                             |



石炭の採掘で隆盛を極めたが、エネルギー革命による需要減のため閉山となった「常磐炭鉱の産業遺産」



(一社) AFW吉川代表理事と福島第一原発のジオラマを囲んで対話



原発事故の影響を受けた地域の住民等との対話  
～科学技術の発展がもたらした影の部分も体感～



富岡復興メガソーラー・SAKURA  
「遊休農地等を活用した再エネ推進の取組」

## テーマ別学習コース例② (SDGs対応プログラム)

# SDGsの視点から持続可能な社会のあり方を考える

SDGs(持続可能な開発目標)の視点から震災・原発事故の教訓、復興を捉え、持続可能な社会のあり方を考えるプログラムです。SDGsの視点(17目標)を活用し、社会課題と日常生活との関連性を理解するだけでなく、社会の一員として、持続可能な社会を創るために必要な視点や目標、自分たちの行動について「独自目標(オリジナルSDGs)」を設定し、学びを自分事化します。

### コース例

海城中学校・高等学校

2泊3日

- |     |  |
|-----|--|
| 1日目 | 11:05 広野駅 発 貸切バス<br>食事 【広野町】ハタゴイン福島広野<br>対話 【檜葉町】[原発・廃炉](一社)AFW 吉川代表理事<br>見学 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」<br>対話 【原発・廃炉】東京電力社員<br>宿泊 【川内村】いわなの郷 着<br>対話 【地域づくり】川内村商工会 井出会長<br>考える 振り返り  |
| 2日目 | 8:30 【川内村】いわなの郷 発<br>対話 【大熊町】[地域づくり](一社)おおくままちづくり公社 高田事務局長<br>対話 【富岡町】[漁業]相馬双葉漁業協同組合 石井さん<br>食事 【富岡町】ホテル蓬人館<br>見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過<br>見学 【浪江町】フィールドワーク(浪江駅、請戸小、大平山霊園)<br>対話 【浪江町】[教育]なみえ創成小・中学校 半杭校長<br>対話 【南相馬市小高区】[事業者]小高ワーカーズベース 和田代表取締役<br>宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着<br>考える 振り返り |
| 3日目 | 8:20 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発<br>対話 【南相馬市原町区】[再エネ](一社)えこえ南相馬研究機構 高橋理事長<br>対話 【飯館村】[福祉]特別養護老人ホームいいたてホーム 三瓶元施設長<br>食事 【川俣町】あじせん楓亭<br>考える 【福島市】ワークショップ<br>17:30 福島駅 解散   |



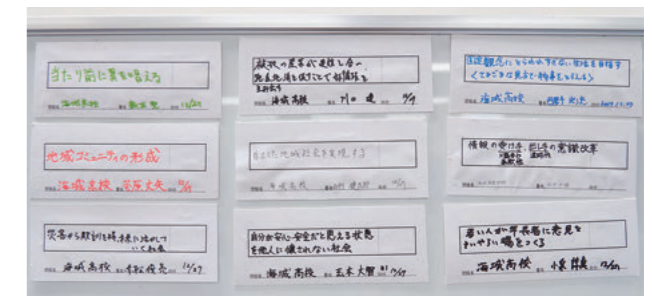
SDGs(17目標)の視点で情報を整理  
(17目標に整理できないものは模造紙にタイトルを付けて別個に整理)



持続可能な社会を創るために必要な視点や目標、自分たちの行動について「独自目標(オリジナルSDGs)」を設定



個人ごとに目標、設定理由、達成に向けた行動を発表



生徒のアウトプット成果物  
(同じプログラムを経験しても感じ方・考え方は多種多様)

### テーマ別学習コース例③ (グローバル教育対応プログラム)

## 震災・原発事故で顕在化した課題を国際課題とつなげる ～海外研修に向けた意識付け、探究のテーマ設定～

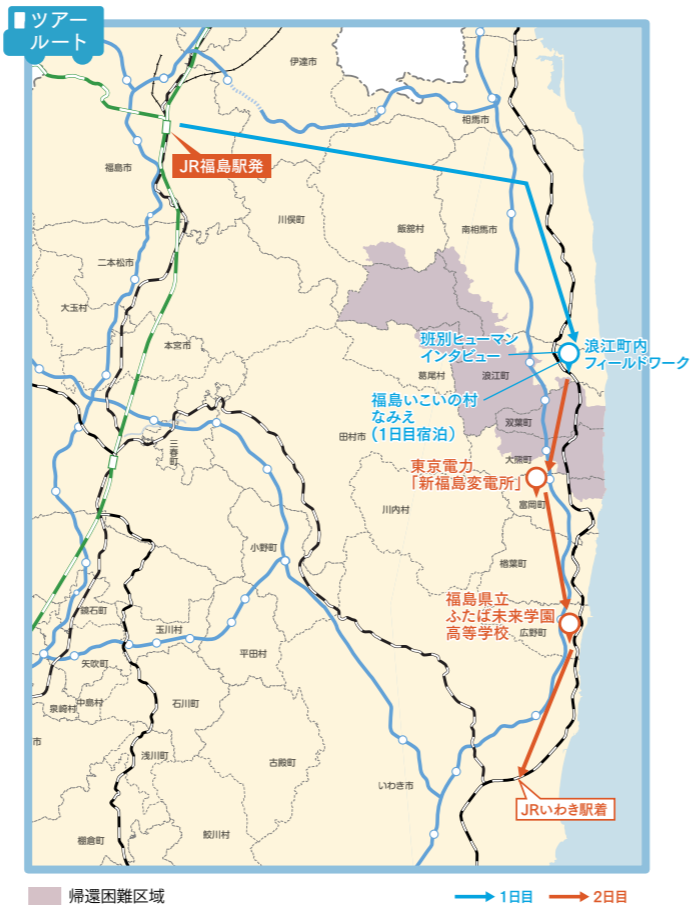
震災・原発事故の影響で顕在化した様々な社会課題を体感することで、福島の課題は「日常生活、日本社会、国際的な課題（経済成長と環境保全、エネルギー、考え方の相違による紛争、相違を乗り越えた合意形成等）」につながるという重要な気づきを得ることができま。国際的な課題を考える上での視野の広がりや探究のテーマ設定に最適なプログラムです。

#### コース例

公文国際学園中等部・高等部

1泊2日

- 1日目**
- 10:45 福島駅 発 貸切バス
  - 見学** 【浪江町】フィールドワーク(請戸漁港、請戸小、大平山霊園)
  - 対話** 班別ヒューマンインタビュー ※小グループに分かれて実施
    - ①[地域づくり](一社)まちづくりなみえ 菅野事務局長
    - ②[地域づくり]任意団体なみとも 小林代表
    - ③[住民]浪江町行政区域長 佐藤会長
    - ④[農業]NPO法人Jin 川村代表
    - ⑤[教育]なみえ創成小・中学校 半杭校長
  - 考える** ヒューマンインタビューの共有
  - 対話** [原発・廃炉](一社)AFW 吉川代表理事
  - 宿泊** 福島いこいの村なみえ 着
  - 考える** 振り返り
- 2日目**
- 8:30 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発
  - 見学** 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
  - 対話** 【富岡町】[原発・廃炉]東京電力社員
  - 考える** 【広野町】福島県立ふたば未来学園高等学校 ワークショップ(ふたば未来学園生徒への発表)
  - 15:30 いわき駅 解散



小グループに分かれて、各グループが異なる分野のヒューマンインタビューを実施



インタビュー内容の共有 (ジグソー法の手法で、生徒が他の生徒にインタビュー内容を説明・全体共有を図る)



ツアーでの学びを踏まえ、社会課題(テーマ)を設定。選定理由、課題のさらなる探究・解決に向けた自分たちの行動を考える



ふたば未来学園高校の生徒への発表と意見交換を実施

### テーマ別学習コース例④ (体験要素を加えたアクティブなプログラム)

## 「田舎暮らし体験」を通して震災・原発事故の影響、課題、復興への息吹を感じる

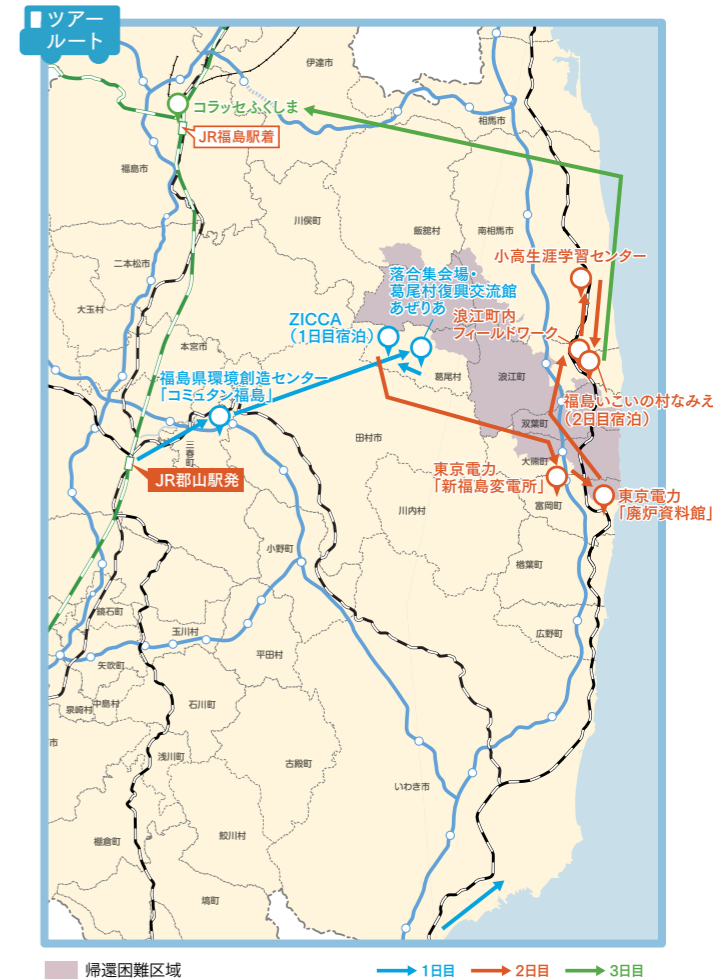
ホープツーリズムの基本コンセプト(見る、聞く、考える)に「体験型学習(感じる)」の要素を加えたプログラムです。田舎暮らし体験(郷土料理の調理、自然・農業・伝統文化の体験)や民泊、住民との交流・対話を通して、田舎の生活や知恵を学ぶだけでなく、震災・原発事故が長い年月をかけてでき上がった豊かな自然、農村、里山、伝統文化などに与えた影響を五感から感じ取ることで学びを深めます。

#### コース例

立教池袋中学校・高等学校

2泊3日

- 1日目**
- 9:50 郡山駅 発 貸切バス
  - 見学** 【三春町】福島県環境創造センター「コミュニティ福島」
  - 見学** 【葛尾村】野菜の収穫→放射線測定体験
  - 対話・食事** 【葛尾村】[地域づくり](一社)葛力創造舎 下枝代表理事
  - 見学** 【葛尾村】フィールドワーク
  - 対話** 【葛尾村】[住民]帰還困難区域の住民
  - 宿泊** 【葛尾村】ZICCA 着 田舎暮らし体験(郷土料理の調理体験)
  - 考える** 振り返り
- 2日目**
- 8:30 【葛尾村】ZICCA 発
  - 対話** 【富岡町】[原発・廃炉]東京電力社員
  - 見学** 【富岡町】東京電力「廃炉資料館」
  - 食事** 【富岡町】ホテル蓬人館
  - 見学** 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
  - 見学** 【浪江町】フィールドワーク(請戸漁港、請戸小、大平山霊園)
  - 対話** 【南相馬市小高区】
    - [事業者]小高ワーカーズベース 和田代表取締役
    - [地域づくり]小高工房 廣畑さん
  - 宿泊** 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着
  - 対話** 【医療】相馬中央病院 越智医師
  - 考える** 振り返り
- 3日目**
- 8:50 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発
  - 考える** 避難所運営シミュレーション教材「さすけなぶる」を使用したワークショップ
  - 考える** 【福島市】ワークショップ
  - 16:30 福島駅 解散



野菜の収穫体験



葛尾村内でのフィールドワーク ~震災・原発事故が里山にもたらしたものを感じる~



村の「お母さん」を先生役に郷土料理の調理体験



ゲストハウスに民泊して田舎暮らしを体感

## 部活動の合宿+ホープツーリズム

# 合宿と学びを両立する新しいカタチ

～震災・原発事故のフィールドからの学びが本当のチームワークを育む～

ホープツーリズムの基本コンセプト（見る、聞く、考える）に沿ったコンパクトな行程とJヴィレッジでの合宿を組み合わせたコースです。温暖な気候で、冬季も雪の影響をほとんど受けずに年間を通じて合宿を行うことができます。サッカー日本代表も合宿を行ったJヴィレッジでの練習はもちろん、地元の学校との交流試合も可能です。合宿と学びを両立する福島ならではのプログラムです。

### コース例

市川中学校・高等学校 サッカー部

2泊3日

1日目	11:30 富岡ホテル 着
食事	【富岡町】富岡ホテル
見学	【富岡町】東京電力「廃炉資料館」
見学	国道6号(一部、帰還困難区域)通過
見学	【浪江町】フィールドワーク(請戸小、大平山霊園)
考える	避難所運営シミュレーション教材 「さすけなぶる」を使用したワークショップ
宿泊	【檜葉町】展望の宿天神 着
対話	【原発・廃炉】(一社)AFW 吉川代表理事
考える	振り返り
2日目	合宿 【檜葉町・広野町】Jヴィレッジ(練習・地元の中学校との交流試合)
3日目	合宿 【檜葉町・広野町】Jヴィレッジ(全天候型練習場での練習)
	13:30 解散



地元中学校との交流試合(野外ピッチ)



全天候型練習場での練習風景



浪江町請戸地区の大平山霊園



避難所運営シミュレーション教材「さすけなぶる」を使用したワークショップ

## ツアー前の「事前学習」、ツアー中の「情報整理」、ツアー後の「事後学習」をサポートする学習教材



震災・原発事故当時の状況、現在までの復興のあゆみ、現状・課題の全体像を学ぶことができる「福島の日からいま(教科書)」と事前学習・ツアー中・事後学習の各場面で学びを整理する「学びノート」を活用することで、生徒一人ひとりの主体的・創造的な学びをサポートします。

### (ツアー前) 事前学習

気づき・疑問の発見  
・事前調査

### (ツアー中) 情報整理

情報整理・気づき・疑問の深化  
・まとめ

### (ツアー後) 事後学習

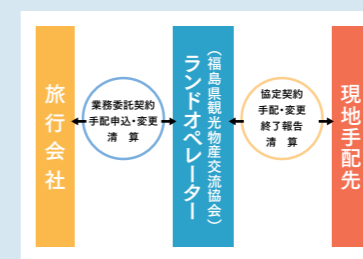
学びを自分事化  
(更なる探究・行動変容)

## ホープツーリズムに関する総合窓口

福島県観光物産交流協会では、ホープツーリズムに関するコンテンツの集約、学校様の学びのニーズへの対応、旅行会社様の商品造成・ツアー催行をサポートする現地手配機能を兼ね備えた「総合窓口」を設置しております。

### (総合窓口の機能)

- 1 コンテンツ(見学施設、ヒューマン、フィールドワーク、食事・宿泊施設等)の掘り起し、集約→情報提供
- 2 広域ツアー、モデルコースの造成→情報提供
- 3 旅行AGT専用ページによるコンテンツ等の情報提供
- 4 現地手配(ランドオペレーター)機能【国内手配業務】
- 5 「ホープツーリズム」商標許諾申請



ホープツーリズム  
Hope Tourism

▲旅行AGT専用ページ  
福島県ホープツーリズムで検索  
→基本画面のバナー上部右の「旅行会社様用」から閲覧が可能。  
※閲覧には、専用のID・パスワードが必要。  
簡易登録により取得可能!

▲現地手配(ランドオペレーター機能)  
被災地域では、通常の観光手配とは大きく異なる専用手配が必要となるため、協会が実績に基づいた手配を担うことで、旅行会社様の商品造成の負担軽減等に繋げる。

▲「ホープツーリズム」商標  
震災・原発事故の教訓や復興への想いを全国・世界の方々に伝え・共有していくため、「ホープツーリズム(登録商標・使用料無料)」の名称を冠した、旅行商品のご提案・情報発信・ツアー実施をお願いいたします!

お問い合わせ

☎024-525-4060 8:30~17:30(土日祝日を除く)

WEB <https://www.hopetourism.jp/>

福島県ホープツーリズム 検索



✉ [hopetourism@tif.ne.jp](mailto:hopetourism@tif.ne.jp)

問 福島県知事登録旅行業第2-362号  
公益財団法人福島県観光物産交流協会 ホープツーリズム推進課

〒960-8053 福島県福島市三河南町1-20 コラッセふくしま7階  
TEL.024-525-4060 FAX.024-525-4087

先生方の感想

### 多くの高校生に「福島の今」を体験してもらいたい



宮崎 大輔 先生  
筑波大学附属駒場中・高等学校  
地歴科

ひとつの問題が様々な側面を持ち、意見の対比が存在する。その事実直に触れ、生徒は頭をフル回転させたことでしょう。また、ヒューマンへの踏み込んだ質問など、生徒の熱心な姿勢には心強さを感じました。

フィールドで学ぶことの重要性、現地へ行くことの大切さ、学びの深さを体験させてくれる貴重な今回のツアー。ぜひ、多くの高校生に「福島の今」を体験してもらい、社会のあり方について考え深めて欲しいと思います。

### 未来の主権者が向き合う課題と学びのスタートライン



菊池 美千世 先生  
お茶の水女子大学附属高等学校  
副校長

多様な立場の多様な意見。感受性が強い10代の生徒が、現地でお話を聞いたことは、これからの人生に大きな影響を与えたと思います。

未来の主権者たちが、エネルギーや環境にどう向き合うのかを話し合い、どんな国をつくるかを考える、貴重な機会でした。

今回学んだことが、数年後に意味を持ったり、新たな捉え方ができることがあると思います。この学びは、3日間で終わりではなく、まさにここからスタートだと実感しました。

※所属の学校名・役職等は、ツアー実施時のものです。

### 生徒たちの心を動かす出会いがある



片田 孫朝日 先生  
灘中・高等学校  
公民科

たいへん濃密な3日間でした。

普段目立たないタイプの生徒が、真剣にグループ討議に参加して意見を述べる姿が印象的で、教室の外で心動かされることがあると、こんな姿を見せるのかと驚きました。

福島には、苦境の中で地域をよくするために奮闘している大人・若者が多く、人格教育としても得るものが多いです。生徒もこれからの福島と、自分の生き方について、よく考えてくれたと思います。

### これからの時代に必要な学びが福島にある



鈴木 久代 先生  
埼玉県立不動岡高等学校  
教頭

生徒がアクティブラーナーとなり、主体的な学びができました。

この3日間、福島の葛藤を見せていただきました。物事はひとつの側面から見ても正解はない。人々の声を聞くことで生徒自身も葛藤し、立場を意識した考え方を持つようになりました。

知ろうとすること。そして、問題を自分事として捉え、対話で解決方法を生む力が、これからの時代に必要な「学びに向かう力」であり、この学びの重要性を強く感じました。

※所属の学校名・役職等は、ツアー実施時のものです。

生徒の感想

### 傍観者ではなく関係者になりたい

福島で様々なことを見聞きし、いろいろな意味でここが世界の最前線だと感じた。廃炉研究、ロボット産業、医療など、福島には様々な可能性があることを知り、福島の発展なしに日本や世界の発展はないと思った。僕は、福島の復興や発展の傍観者ではなく、関係者になりたいと思った。

石井 敬直 さん  
筑波大学附属駒場高等学校

### 伝わっていない福島の本当の現実

福島の方々の姿を見て、僕たちに何ができるかを考えさせられました。何かできることはないのか。そして、僕はこう思いました。今、必要なのは、実際に被災地に足を運び、一緒にいろいろな活動をして、本当のリアルな暮らしを知ること、また、いろいろな人の話を聞くこと、それからそのすべてを伝えていくことだと思いました。

倉持 祐希 さん  
市川高等学校

### 震災の被害の大きさを決めるもの

再び震災が起きた時、福島で得た教訓を活かして行動できる人になりたい。もっと多くの人々が3.11の事実と教訓を知り、それらを未来に活かせる人が増えれば、今後、震災が起きたとしても被害を軽減できるのではないかと。震災の被害の大きさを決めるのは「天」ではなく「人」だと思った。

田辺 翔子 さん  
埼玉県立浦和第一女子高等学校

### 日本人として知っておくべきこと

震災でコミュニティなどの大切なものをなくした地域があるという、事実を実際に見て聞いて、日本人としてこの現実を知らなくていいはずがないと思いました。元の姿を取り戻すだけでなく、新しいまちづくりに挑戦する福島の様子を見て、復興のあり方について考えさせられました。

佐藤 かえで さん  
公文国際学園高等部

※所属の学校名・役職等は、ツアー実施時のものです。

### ぼくたちに必要なのは生の声

生の声を聞き、伝え、共有し、また学ぶということが、我々に求められる姿勢であると理解しました。多くの場合は、何らかのフィルターにかけられたものしか我々の耳に入ってきません。そういった中で、今回、様々な分野のヒューマンに直接お会いできたことは貴重な経験となりました。

金子 友祐 さん  
灘高等学校

### 高校で学ぶ意味を再認識

社会には様々な立場の人がいて、様々な思いを持っていることを再認識しました。自分が普段いる高校という社会がいかに狭いかを実感し、社会問題を考える上で、今の自分には多角的な視点が必要だと感じました。一方、高校で習ったことが直結している部分も多く、高校での学びの重要性も感じることができました。

人見 はるか さん  
お茶の水女子大学附属高等学校

### 持続可能な社会の実現のために

持続可能な社会づくりには、地域の自立が重要だと感じました。そのためには、地域内・各地域間のコミュニケーション・協働や自立した産業・特色を創ることが必要です。持続可能な社会づくりの第一歩は、それぞれが自分の生活する地域にしっかりと目を向けて、関心を持つことだと思いました。

坂木 駿吾 さん  
海城高等学校

### 福島から考える生き方

ひとつの物事に対しても、見る立場が違えば、考え方も違う。大切なのは、答えを見つけることではなく「考えること」だと思いました。福島の事故だけではなく、世界中で答えのない問題はたくさんあります。そこから逃げずに、話し合い、立ち向かう勇気がこれからの社会に必要なだと実感しました。

堀田 優羽 さん  
埼玉県立不動岡高等学校

※所属の学校名・役職等は、ツアー実施時のものです。



# 子どもたちの将来のために、 ふくしまだからできること。

---

学びの場として捉えた  
ふくしまの今のすがた。

将来を担っていく子どもたちにとって  
ほんとうに必要な「学び」、  
経験しておくべき「体験」が、  
そこにはあります。

課題を解決するプロセスや  
一歩一歩あゆむ人々の決意と葛藤。  
震災・原発事故の教訓や復興の過程から学びを得ることで、  
多くの気づきや変化が生まれています。

子どもたちが、ふくしまの今を  
実際に自分の目で「見て」、  
地域の人々の想いを「聞いて」、  
自らの経験として「考える」。  
ここでつかんだ学びの種がやがて芽生え  
一人ひとりの中で  
未来へ向けて育ち始めます。

学習プログラムとして  
「ホープツーリズム」の導入をぜひご検討ください。